



愛川ふれあいの村 今月の風景

2021年7月 自然のたより

土砂災害警戒情報や線状降水帯など少し前はほとんど聞いたこともない気象用語を最近をよく耳にします。そして、今年もまた大きい災害が発生してしまいました。自然と人との関わりを考えさせられます。幸い村は土砂崩れや倒木などの被害はありません。木々や草花はどんどん成長を早め、観察が追いつかないくらいです。野鳥たちも巣立ちの季節を迎えあちらこちらで親鳥に餌をねだる幼鳥の可愛い声が聞こえます。グラウンドでは巣立ったばかりの数十羽のムクドリが遊んでいます。いよいよ梅雨明けです。暑い夏の始まりです。(高梨)



ヤマユリ (県の花)



コバノカモメヅル



エサキモンキツノカメムシ



ヨシガキ (ライトトラップにきた)



コ克蘭



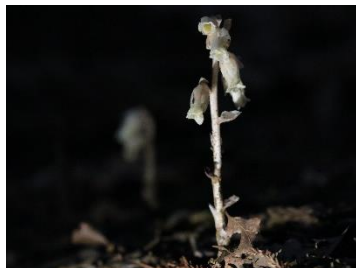
脚をふるわせるナキイナゴ



ヤブレガサ



アカモミタケ



シャクジョウソウ



仲良しキノコ



ホソバセセリ



ヤブサメ



キビタキ



ツミ



電柱にアブラゼミ

トピックス ★頭だけ★

暖かい日が多くなり、たくさんの昆虫が活発に活動し始めました。カブトムシやクワガタは夏のシンボルの1つです。

村内を歩いていると、大きなクワガタを発見しました。よく見てみると、お腹には小さなアリがびっしり！動いているので気付かなかったのですが、お腹がすっぽりなくなっています。頭だけになっても、木の枝でハサミに触るとしっかりとつかみ離しません。すぐ近くにも、小さいコクワガタのお腹がなくなっているのを見つけました。

クワガタの周りにアリがいたことから、アリがお腹を食べたと思われがちですが、実はカラスやフクロウなどの鳥たち、夜のクワガタが活発な時間を狙うタヌキなどがお腹を食べているのです。野生動物たちは柔らかいお腹の部分だけを好んで食べ、硬い頭は残します。人が魚を食べる時と一緒にですね。昆虫を食べた残骸は少し不気味な感じがします。

食べられているクワガタやカブトムシは、ほとんどがオス。これは、鳥やタヌキが捕食する際に、角（つ）が目立ってしまうようなのです。オス同士の戦いでは有利になる角も天敵に見つかってしまい、捕食されてしまうのであれば大きすぎても困る気がします。（住友）



生き物★自然界には敵がいっぱい★

ある朝、我が家の植込みの中から1羽の鳥が飛び出し裏山の茂みの中に消えた。大きさはムクドリくらい。翌朝もまた同じ所から飛び出し、今度はしっかり確認。正体は中国原産で特定外来生物に指定されているガビチョウです。その植込みを覗くとそこには丁寧に作られた巣と中にはエメラルドグリーンにコーティングされた、まるでチョコレートのような卵が1個。日頃はうるさくて好きになれない鳥だが、こうなると愛着がわくのも人の情です。やがて卵は四個となり、そして3羽の雛がかえりました。やったやったと喜んでいた次の朝、啞然…。巣の中が空っぽです。我が家には大きいアオダイショウもいるし、台湾リスもいて鳥の巣を狙います。自然の厳しさを教えられ短い観察は終わりました。（高梨）



旬 ★ミョウガ★

今年も山神様の近くに大量の『ミョウガ』ができました。その歴史は古く、野菜として栽培しているのは日本だけとか。

あの独特な香りは、「 α ピネン（アルファピネン）」という成分によるもので、大脳皮質を刺激して眠気を覚ます、胃の働きを活発にする、発汗作用によって血行をよくする効果があります。胃の働きが活発になることで、夏バテによる食欲不振も回復しそうですね。他にも、高血圧の予防になったり、ホルモンバランスを整える作用から女性の冷え性などにも効果があるとされています。

刻んで豆腐やそうめんの薬味に。夏野菜と合わせるなどして、おかずの1品に。おいしい夏バテ予防で、今年の暑い夏も楽しく過ごせるといいですね。

（三好）



来月の見どころアブラゼミの活動
七月の声を聞くと、早朝から涼しげなニイゼミの音が聞こえてくる。「チーチツチツ」と静かに心に沁み込むような鳴き声が印象的だ。少し曇ってきたり雨模様の気配がすると「カナカナカナ」とヒグラシの音が聞こえてくる。
ゼミの命は一週間と言われているが、実際は二週間くらい生きていくようだ。ふれあいの村で十月の終わりにアブラゼミの声を聞いたことがあるが、この例は遅く生まれたのか、長生きしたのか不明である。
八月の夕暮れ時、柿の木やメタセコイヤの枝先の葉には、地面から一歩一歩這い上がってきたアブラゼミの幼虫たちが神秘的な羽化を行う。茶色い幼虫の動きが止まると、背中が割れ頭が出てくる。しばらく下向きになって頭に血液を送っているらしいが、力強く起き上がり殻に止まる。すると、今まで小さかった白い翅が次第に伸びていく。幼稚園の先生方の夜間の研修で、この神秘的な現象を見たことがあったが、その時の感動を園の子どもたちにも伝えていきたいと話していた。
交尾を終えた雌のアブラゼミは、丈夫な産卵管で枯れ枝に産卵する。卵は翌年の梅雨の時期に孵化し地面に落ちる。五年ほど地下で幼虫の期間を過ごし盛夏に神秘的な羽化をするらしい。苦労と謎の多いゼミの活動を見守ってあげたいと思う。（吉田）

